

北信教育事務所だより

令和8年2月20日発行 第7号

今号では、学校改革支援訪問メニューA「教科等における『探究の学び』充実」、C「ICT活用充実」の取組について紹介します。

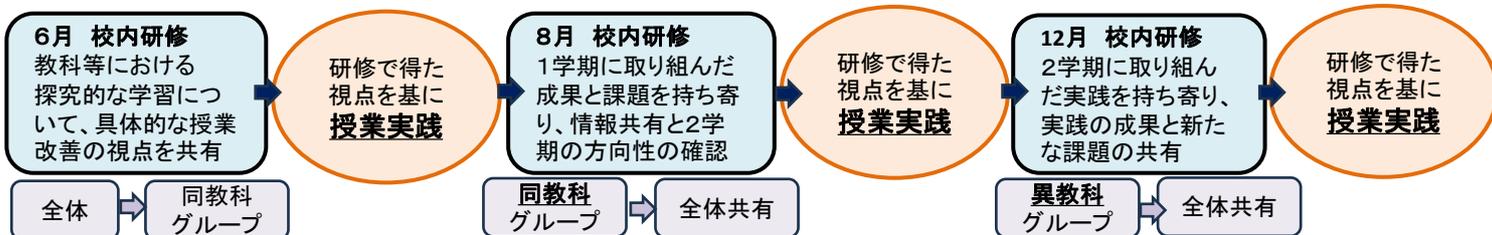
探究的な学習を実現するための校内研修の工夫 長野市立北部中学校

長野市立北部中学校は、重点目標を「生徒がやってみたいと思う探究的な授業と、生徒の主体性を育む活動を通して、生徒一人一人の可能性を伸ばし、考える力を高め、自立した生徒を育てる」としています。重点目標達成に向けて、教科等における探究的な学習の視点から日々の授業改善に取り組んでいます。



学びを支える研修の計画と実施

6月の校内研修では、探究的な学習を実現するために「各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせること」「授業改善の視点として主体的・対話的で深い学び」の視点が大切であることを確認しました。そして、この視点を基に日々の授業実践に取り組みました。また、8月、12月の校内研修では各自の実践を持ち寄り、良さや改善点を共有する校内研修を実施しました。



≪ 研修の様子 ≫

- ・見方・考え方が働くような課題を設定したことで、時代の背景をもとに活発に意見交換する子どもの姿が見られた。(社会科)
 - ・実際に車椅子で校舎内を移動する活動を取り入れた。体験したことを基にどうしたら誰もが安全に生活することができるのか考え始める子どもの姿が見られた。(家庭科)
- など、実際に使った教具や資料、授業の様子がわかる写真などを用いながら各自の取組が紹介されました。



先生方は一つ一つの研修を通して得た視点を基に授業を振り返り、良さや課題を明確にしています。子どもの姿を大切に振り返りながら、「生徒が『なんで』『やってみたい』と思える導入を工夫したい」「もっと自由に考えられる学習カードにしたい」などの願いを次の実践につなげています。

北部中学校では、「子どものどのような姿が探究的に学んでいる姿といえるのか」というイメージを共有し、計画的に研修を重ねること、そして、研修を通して見えてきた「見通しをもてる導入や問いの設定」「活動時間の確保」「教材の工夫」「振り返りの質の向上」などの視点を生かしながら、授業改善を継続しています。まさに北部中学校の先生方自身も探究的な学習を実践しているのです。

「まず使ってみる」 ICT活用のよさを実感する研究推進 小川村立小川小学校



小川小学校では、「自ら学ぶ力・とことん学ぶ力・ともに学ぶ力」を発揮し、自分の学びや成長を実感できる学習を求めて、ICTを活用した授業づくりに挑戦してきました。「まず使ってみる」ことを大切に、ICTを活用するよさを実感してきた先生方の様子を中心に、小川小学校の実践を紹介します。

単元名：「形に命をふきこんで」（図画工作科）（コマ撮リアニメーションの作成）

【単元及び公開授業の概要】

国語科の学習で、構成や表現を工夫しながら物語を作成した5年生。その物語を図画工作科「形に命をふきこんで」の学習において、コマ撮リアニメーション作成ソフトを用いて動画で表現しました。この日Aさんは動きや奥行き、撮影場所の特徴を生かすなど、造形的な見方・考え方を働かせ、熊が川で魚を釣るシーンを表現しました。

森をバックに撮影したら本物の自然みたいになりそう。

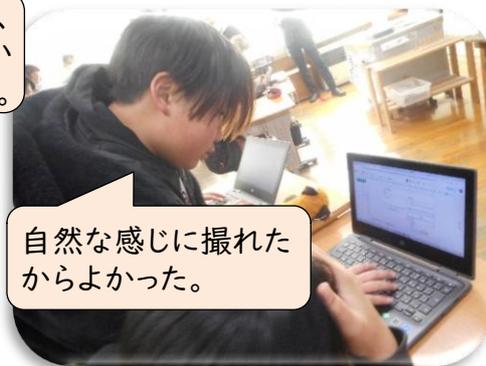


波をつくるから、自分が映らないように撮影して。



本当の川みたいになってる。すごい。

自然な感じに撮れたからよかった。



《小川小学校の先生方の声》

- ・ICTを活用することで、失敗を気にせず何度でも作り直せる。試行錯誤できることはICT活用の強みだと思う。
- ・振り返りや願いを端末に入力することは、自分の願いを明確にすることにつながる。また、これまでの願いを可視化し、変容や育ちを自覚化できることがよい。

3回にわたる学校改革支援訪問のうち、2回目の学校訪問では、B先生が総合的な学習の時間のまとめをスライドで作成する授業を行いました。ICT活用に苦手意識をもつB先生でしたが、同僚に使い方を学び、授業に臨みました。B先生は授業後、子どもたちが自らスライドを共有したり、共同編集をしたりしながら、目的意識をもって作成する姿に驚き、次のように話していました。

子どもの方がICT機器は使えると感じた。子どもや得意な先生に教えてもらいながら活用していけばいいと思う。「やってみて学ぶ」ことが多いと感じるし、やってみることで、活用の幅が広がっていくと思う。



次期学習指導要領改訂に向けた諮問では、次の一文があります。「『デジタルカリアルか』、『デジタルか紙か』といった二項対立に陥らず、『デジタルの力でリアルな学びを支える』との基本的な考えに立ち、バランス感覚を持って、積極的に取り組む必要があります」また、諮問を受けて検討された論点整理においてもデジタル学習基盤に関わる方向性がふれられています。



論点整理資料

資質・能力の育成及び目指す子どもの姿の実現に向けてICT活用に挑戦してきた小川小学校。先生方の合言葉は「まず使ってみる」でした。まず使ってみて、ICTを活用するよさを実感しながら研究を進めてきた先生方。その挑戦は、先生方自身も「自ら学ぶ力・とことん学ぶ力・ともに学ぶ力」を発揮し、成長し続ける歩みでした。

また、小川小学校の実践から、「デジタルの力でリアルな学びを支える」を実現するためには、各教科等の見方・考え方を働かせるICT活用にしていくことが大切であるといえそうです。



初任者研修「1年次プログレス研修」

「初任者のみなさんの、この1年間の大きな成長を、あらためて実感しました」

1月13日、初任者研修「1年次プログレス研修」での、古畑祐二学びの共創課長のこの言葉が象徴するように、研修の中で、日々の取組や工夫を振り返り、子どもの姿で語る初任者のみなさんの姿は、緊張と不安と期待の入り混じる4月の姿とはまったく異なる、たくましく、しかし、謙虚に学び続ける立派な教師そのものでした。



初任者のみなさんは、この1年間、「自己課題」を設定して、日々の学級づくり、授業づくりに取り組んでいます。それぞれの「自己課題」が、初任者の自分を磨き続けてきた視点であり、自分の成長を実感する視点でもあったといえます。ここで、その一部を紹介します。

子どもに任せてみる勇気を持ち、頼り合える居心地のよい学級風土づくり

子どもが学びの主人公になる授業づくりを目指して

子どもたちが夢中になって取り組むことができる授業

子どもの好きや得意を活かしながら、一人一人に活躍の場がある授業づくり

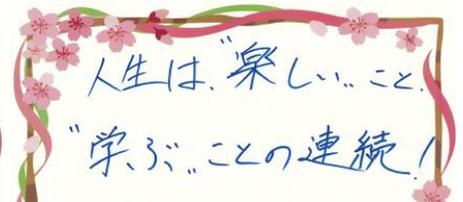
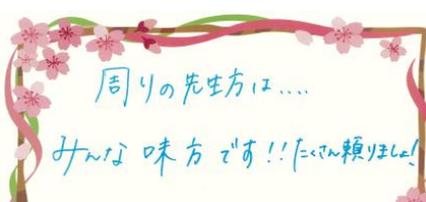
スモールステップによる学習で生徒一人ひとりが学びを実感できる授業づくり

一人一人の実態把握と環境づくりをもとにした「学級づくり」

【初任者のみなさんの振り返り】より ～「自分の成長」～

- 子どもたちの視点に立った学級づくりができるようになったと感じています。自分が主導するのではなく、子どもたちの力で、考えて、学級をつくっていくという意識を子どもたち自身が感じられるくらい、主体性を引き出す教師の役割を果たせるようになってきました。
- 失敗をおそれずとにかくやってみる…それを心がけて挑戦した1年でした。私は考える時間が長く、動き出すまで時間がかかります。でも、はじめから完璧を求めず、動きながら考えられるようになりました。

研修の最後に、1年間の自分を成長と過ごしてきた日々を振り返り、「来年度の初任者のみなさんに、どのような言葉を贈りますか？」と尋ね、言葉を書いてもらいました。その一部を紹介します。



楽しいことも、大変なことも両方あった初任者のみなさんが書いた言葉に、日々の頑張りや同僚の先生方のあたたかなサポート、自分と向き合いながら子どもと成長する姿を感じ取ることができます。

教師は、子どもたちが迎える「未来」と、子どもたちが生きる「今」、の両方を支えることができる仕事です。

みなさんのこれからの活躍も祈っています。



1年間の成長を感じ、3年次の自己課題をもつ ～2年次プログレス研修（採用2年目の先生を対象とした研修）～



【グループ協議】

グループ協議では、「導入の工夫」「子どもの興味・関心や願いを生かした授業づくり」「安心して学べる環境づくり」など2年次の自己課題を基に、この1年間の取組や成果について意見を交わしました。1年間の実践を振り返りながら、互いに学び合い、自身の成長を実感するとともに、3年次に向けた課題を明確にする貴重な時間となりました。



【参加された先生方の感想】

《成長の実感》

- ・子どもの声を聞こうと意識することができるようになりました。続けていきたいです。
- ・単元全体や単元間のつながりの見通しをもって取り組むことができました。

《3年次の自己課題》

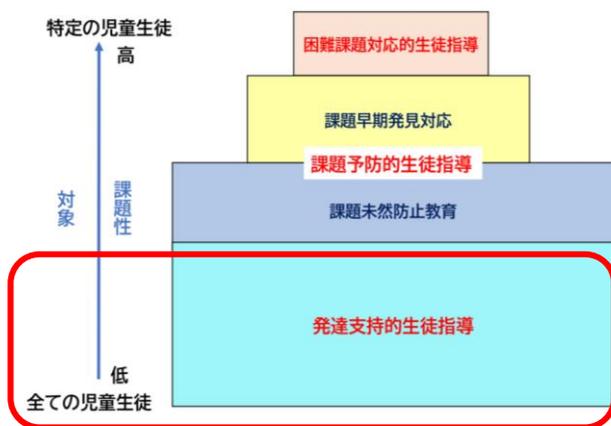
- ・対話を通して、子ども同士をつないで授業を進めていきたいです。
- ・子どもの姿を大切にした授業づくりや学級づくりを行っていきたいです。

「周りの力を借りること」「もっと周りの先生方に相談すること」「謙虚に学び続けること」の大切さを改めて実感したという先生方のお話を聞いて、周りの先生方の助言や励ましが大きな力になっていると感じました。基礎形成期の先生方にとって、困った時や悩んだ時に周りの先生に相談できることは次の一步を踏み出す心の支えになります。互いに相談し合いながら安心して働ける環境は、先生自身、そして子どもの成長につながっていくことと思います。

【講義～授業づくりと学級づくりの基盤～】

自己課題やグループ協議において、先生方から授業づくりの視点だけでなく、先生と子ども、子ども同士の関係づくりへの意識が共有されていました。子どもの成長を支える上で、学習指導と生徒指導の一体化を図ることは大変重要です。今回の講義では、生徒指導提要が示す「実践上の4つの視点」から、これまでの実践を捉え直し、子どもの成長をいかに支えていくべきか、これからの取組について共に考えを深めました。

図1



生徒指導の実践上の4つの視点を大切にした授業づくり

自己存在感の感受を促進する授業づくり	共感的な人間関係を育成する授業
「自分も一人の人間として大切にされている」 (自己存在感) 「ありのままの自分を肯定的に捉える」 (自己肯定感) 「他者のために役立った、認められた」 (自己有用感) 児童生徒の多様な学習の状況や興味・関心 →どの子も分かる、面白い授業 ICT活用	互いに認め合い・励まし合い・支え合える 学習集団づくり 自分の得意なところを発表し合う機会を提供する 失敗を恐れない、間違いやできないことが笑われない、 なぜそう思ったのかという児童生徒の考えについて お互いに関心を抱き合う授業
自己決定の場を提供する授業づくり	安全・安心な「居場所づくり」に配慮した授業
意見を述べたり、まとめたり→ 自ら考え、選択し、決定する力 意見発表の場 対話や議論の機会 協力して調べ学習をする、実験する、発表する など 教師：学びを促進するファシリテーターとしての役割	個性や多様性が尊重されること 他者の人格や人権をおとしめる言動が許されないこと 学級が安全・安心な居場所となるように

授業は、すべての児童生徒を対象とした発達支持的生徒指導の場です(図1)。生徒指導提要では、生徒指導の実践上の4つの視点を大切にした授業づくりについて、右上のように示されています。先生方が日々大切にされている視点もあるのではないのでしょうか。4つの視点を意識して授業づくりや学級づくりを行い、子どもたち一人一人が安心して学級や学校で過ごし、それぞれの力を伸ばすことにつなげていきましょう。



スポーツ指導者講習会 「わくわくスポーツセミナー」の報告

今年度は2回のセミナーを開催しました。参加者は運動・スポーツについて考えたり体を動かしたりしながら共に学ぶことができました。初めてご参加の方、リピーターの方、お子様連れの方、どなたでも共に学ぶことのできるセミナーです。リピーターの方からは、研修したことを実践に生かしているというお話もお聞きしました。来年度もセミナーを開催予定ですのでぜひご参加ください。

第1回 「スポーツを通した子どもの居場所づくり

～誰もが一緒に楽しめるスポーツ種目の普及～

前半

「動き・遊び・ムーブメントの理解と実践」 講師 太田澄人さん(サンアップル)

<セミナーのポイント>

- 運動や遊びを通して、身体の使い方を学ぶことができる。
- 「動きたい」「触りたい」等、やってみたくなる環境が大切。
- 「成功体験」を与えるため、課題をスモールステップ化。



<参加者の感想>

- ・子どもたちがやってみたくなる感覚を大事にした遊びの中での動きがスポーツの土台になるのだと実感できました。
- ・すぐに実践できるものが盛りだくさんで、参加させていただき本当に良かったです。

後半

「誰もが一緒に楽しめるスポーツ種目の紹介」

講師 柳見澤宏さん(NPO法人長野スポーツコミュニティクラブ東北)

<セミナーのポイント>

- 参加者の年齢や技能などに合わせて、ルールや場を工夫することが大切。
参加者自身でルールを工夫していくことも楽しみ方の一つ。



<参加者の感想>

- ・大人でも盛り上がる簡単なルール、また自分たちでルール変更できるものばかりで、年長クラスや親子レクなどで実践してみたいと思いました。

紹介した種目: ★ボッチャ、★モルック、ディスクゲッター、囲碁ボール、★ふらばーるバレー、
インディアカ、スマイルボーリング、★ムーブメントスカーフ、★ビーンズバッグ



★の用具は貸し出しが可能です。詳しくは北信教委育事務所HPをご覧ください。

北信教委育事務所
生涯学習分野HP

第2回 テーマ「幼少期の体づくり、動きづくり!

発達段階に応じた運動遊びの案内人になろう!

講師 渡邊真也さん(長野日本大学小学校)

<セミナーのポイント>

- 「楽しい」ことが大事。楽しいからまたやりたくなる。
- 何かを教えるのではなく子どもの心を動かす人に。



<参加者の感想>

- ・教室でも体育館、グラウンドでも、数分でも1時間でも単元を通してでも、すぐにできることを学べる研修になりました。『やらせる』から、『やってみたい』、『もっとやりたい!』になるよう支援していきます。

子供たちへの周知を
お願いいたします



旅の主役は君だ!



長野県のこと好きな君
長野県のこと もっと知りたい君
仲間と一緒に
見て、聞いて、体験する旅に
出てみない?

【年間実施予定プログラム】

6/6 キックオフ&
グローバル体験キャンプ

7/11 県内企業訪問

8/6 1日海外留学体験
(TGG in 立川)

11/21,22
フィールドスタディ in 関東
(つくば市 JAXAなど)

3/6 未来を語ろう!
提案フォーラム

3/6は、知事も参加予定!

※本事業は令和8年度予算要求中であり、
予算成立後に実施します。

令和8年度新規事業

令和8年度小5～中2の、旅の仲間15名を募集します!

We Are Astra!

アストラ

・Astra
ラテン語で「星々」
地域・世界・人とつながりながら、
長野県の未来を照らす存在になって
ほしいという願いを込めて、本事業
をAstraとしました

～長野県の明日(アス)を切り拓くトラベラーズ～ **参加費無料**

大事な応募条件は

長野県への思い
を持っていること

長野県の
こんなところが
好きなんだよな

長野県のこと
もっと知りたいな

長野県の
こんなところを
もっとよくしていきたいな



応募はGoogleフォームまたは郵送で!

<https://forms.gle/Naf8ViBnA5bkSVYq6>

※Googleへのログインが必要です



3/6(金) 応募締切

主催 Astral実行委員会

【Astral実行委員会構成団体】長野県、長野県教育委員会、長野県小学校長会、長野県中学校長会、長野県特別支援学校校長会
信濃教育会、長野県経営者協会、長野県中小企業団体中央会、長野県商工会議所連合会、長野県商工会連合会 他、関係団体
【事務局】長野県教育委員会 学びの改革支援課

026-235-7434

kyogaku-gimu@pref.nagano.lg.jp
<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyogaku/astra.html>
〒380-8570 長野市南長野幅下692-2

担当 学びの改革支援課義務教育指導係 藤森、大原

